

	検討会での意見・課題	目指すべき支援の方向性	具体的施策
相談・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援をプラットフォーム化、ワンストップ化し明示することが必要。 ・子どもの健康・安全を確認するためには、デリケートな(時間をかける)対応と権限に基づいた(緊急的な)対応があり、双方連携をとっての対応が必要。 ・対象者の年代で支援の内容が異なる。年代が横軸と医療機関の必要性が縦軸のマトリックスで考えている。 ・ひきこもりは、社会的孤立の問題のため、複合的な課題があり、複数の機関で支援する必要があるが、制度の狭間にいる方もある。 		
普及・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・「8050」では遅く、「6535」付近でキャッチできる仕組み作りが必要。 ・ひきこもりは社会的孤立の問題であり、本人も社会につながりたいので、市としても手を差し伸べていきたいとのメッセージを強く打ち出していけたら良い。 ・キーワードは社会的孤立で、社会的排除を無くし社会的包摂へ変えるべき。 		
情報共有・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・マンパワーは限りがある資源であり、ネットワーク化が重要。また、どこがリーダーシップを取るか連携と分担も考える必要がある。 ・2年間、職場体験などの支援の結果、週3日工場で勤務できるようになった事例もある(ご本人の意向から就労支援という一面でのサポートとなったが、本来は、指令塔があって支援者のネットワーク構築による総合的支援を行うべき)。 		
家族支援			
専門的支援	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の心のケアやサポートのための個別カウンセリングや、グループ療法ができるような組織的な取り組みが必要。 ・働きたい(本人)・働いてもらいたい(家族)という意見が多い。「就労支援」をひとつの方向性として進めてはどうか。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者個人の専門性を高めて、それぞれがプラスアルファの取り組みを行う必要がある。 		